新国劇の「屋上庭園」を観て

岸田國士

青空文庫

年末から旅行をしてゐたので、今日（十四日）見ました。

一体、作者が、ある俳優または劇団に、自分の作品の上演を許可し、時には依頼することもあるが、さういふ場合にその俳優の舞台を云為することは、礼儀上謹しむべきことであつて、ましてこれを公表することは私の趣味からいつても可嫌なことだが、いろ〳〵の場合に言つてゐるやうに、現在はある意味で新劇の啓蒙時代である。演劇の当事者は勿論、その研究者、さらに一般観衆すらも在来の芝居に対して新しく起つてくる運動に自覚的な眼を向けなければならないのですから、私は忌憚なく今度の沢田氏の舞台を見ての感想を述べませう。この感想は、決して一個の劇評家としての立場からでないことを断つておきます。言い換へれば、自分の作品を他人が演出した場合に、作者としては先づ考へなければならないことは、その演出者の立場といふことで、それさへはつきりすれば、おのづから、作者の気持ちもはつきりする訳です。

今度新国劇で私の作である「屋上庭園」を上演したいといふ希望を伝へてきました。そこで私は先づ自分の立場を考へた。第一に私は、新しい演劇が、いろ〳〵な意味で在来の演劇から区別されるためには、そこに新しいものを付け加へる以上に古いものを捨てなければならないといふ主張をもつてゐる。それがために常に俳優の演技に、根本的な革新を要求してゐる訳ですが、それならばさういふ俳優をもつてする新しい演劇はいつ生るべきかといふ問題に対して常に不安をもつてゐました。それで私は、新しい演劇の第一歩は、俳優の演技の基礎教育にあ

ると信じて、自分の演劇における実際的努力も、勢ひその方に向けるつもりでゐました。さういふ訳ですから、未熟ではあるが自分の作品を既成劇団の手にゆだねるといふことは苦痛だつたのです。いかなる理由があるにしても、さういふ苦痛を忍んで上演を許したのは、何よりもたゞ一つのことを期待したからで、その一つのことゝは、甚だ嗚滸がましい言ひ草ではあるが、新劇といふものがそれほど退屈なものでないといふこと、更に新劇といふものの中には、日本の既成劇団が今まで持つてゐなかつたものを舞台の上にしめし得るものだといふことを、今まで新劇といふものに親しみのない観衆に知らせる機会を少しでも多くしたいからです。

で、実際この目的を達する為には謂ゆる新劇の劇団では、ある大事なものを欠いでゐるのです。この大事なものとは、俳優が俳優として見物の心を掴む演技上の秘訣であります。

私は今日、新国劇の舞台を見て第一に感じたことは、この劇団が、いかに動きつゝある観衆の趣味に対して、痛ましい程神経質な眼を光らせつゝあるかといふことで、この眼の色は、慥かに観衆にある同情心を起させる。がこの同情心こそは、やがて見物をして芸術と絶縁せしむるものだといふ懸念を禁じられません。

第二に、作者が稽古に立会はない場合に、いかにその作品が舞台上で変形されるかといふことは、今更初めて感じたことではないが、その変形が、演出者の芸術的意識によらない場合にどういふ結果を生むかといふことであります。作品の精神を掴むといふやうなことは、実際容易なことではないので、かういふことは今、私が力瘤を入れて云つてみても仕方がないことだ

が、始終作品の精神を誤り伝へはしないかといふつゝましい演出者の努力は、少くとも作者に非常な好感を与へるものに違ひない。この点で新国劇は、やや作者の存在を忘れてゐる憾みがある。これはもし沢田氏自身から、直接意見を徴せられた場合には、明らかに言ふことを避けたい問題であらうと思ひます。抽象的なことは、こゝで言ふことを避けるとして、一度あの作品を活字によつて読まれた方ならば、沢田氏がいかに作者の苦心をした、台詞に対して、必ずしも鈍感だとは言ひませんが、甚しく無頓着であるかを認められるでせう。

第三は、あの芝居を見て面白いといふ人は無論あるでせう、そしてそれは、確かに沢田氏以下演技者の天稟の魅力、乃至は今日まで鍛へ上げた腕前の賜であるに違ひありません。しかし、あの芝居を見て詰まらないといふ人達のうちには、新国劇の将来最も依頼すべき人達がゐることを注意してほしい。謂ゆる芝居語には通じないのですが、一般に受けるといふやうな事柄は、少数のオンネート・オンム、モリエールの謂ゆる「立派な人」を除いた大多数に迎合するといふことならば、更に目をひろくしてこのオンネート・オンムを含んだ観衆全体に訴へ得る魅力を、この劇団に望むのは、私ばかりではないと信じます。（一月十四日夜）

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集20」岩波書店
1990（平成2）年3月8日発行
初出：「演劇新潮　第二巻第二号」
1927（昭和2）年2月1日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志、小林繁雄
2005年10月6日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新国劇の「屋上庭園」を観て

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/